

日本語教育に見られる日中敬語の特徴

曹 春 玲

1 はじめに

敬語は人と人が互いの意志疎通を可能にする重要なコミュニケーションの手段の一つであり、日中両言語で幅広く使われている。日本人であろうと中国人であろうと、コミュニケーションをスムーズに進めるために、日常生活や職場など、さまざまな場面で敬語が常に用いられる。日本では、敬語による表現形式や固定的な文法が定着していると言っても過言ではない。このように、中国語を母語とする日本語学習者にとって日本語の敬語を上手に使いこなせるようになるにはかなり難しさがあると筆者は自身の指導体験から感じていた。両言語の敬語には使用上どのような差があるか、また日本語学習者にとって敬語の使い方はどのように把握しているか、本稿ではこれらの点を明らかにすることを目的としている。そのため敬語における定義、分類、表現形式、用例という4つの観点から日中両国語の敬語の特徴を対照しながら、検討してみたい。

2. 敬語とは何か

敬語の定義に関してはいくつかの説がある。佐伯（1998：92）によると、敬語とは発話者、または書き手が他の人物を目上の人と待遇して用いる特定の言語形式のことである。たとえば「お目にかかる」、「ご結婚なさる」、「お帰りになる」などの敬語の表現形式は相手が発話者より目上の人である相手に用いられる。このように、敬語とは発話者が相手や話題の人物を目上の人として待遇していることを示す言語形式である。これらの表現は広く言えば待遇表現とも呼ばれる。

辞書（『大辞林』三省堂第三版）によると、敬語は聞き手や話題にのぼっている人物・事物に対する発話者の敬意を表す言語的表現とされている。日本語の敬語には、聞き手・話題に対して発話者の敬意を表す「尊敬語」や「謙譲語」と、聞き手に対して発話者の敬

意を直接に表現する「丁寧語」がある。以下に用例を見ていく。

【1】 筆者が恩師へ送ったあいさつのメールである。

先生、本当にご無沙汰しておりますが、お変わりございませんか。日本では、もうすぐお正月になるので、ごあいさつをしようと思い、年賀状を作ってみました。読んでいただければ、幸いです。では、またご連絡いたします。(筆者による)

【1】の文章の中で波線をつけているところは書き手である学生が目上の先生に対して敬意を表す言い方である。このような場面では、先生は目上の人で尊敬すべき対象だと考え、筆者は「いただく」「いたす」という表現形式を用いている。日本人の文化背景では上下関係が重んじられており、自分より目上の人であれば、このような敬語の表現形式が用いられる。

次は、中国語の敬語についてである。『現代漢語辞典』(第五版 商務印書館)によると、発話者が自分の尊敬や感謝の意、あるいは自分の謝罪や謙譲の気持ちを表明する専用の言葉であるとされている。例として、「北京空港での出迎え」の会話場面を見てみよう。

【2】 王 : 您好! 我姓王, 欢迎你们不辞远路 前来访问。

はじめまして。王です。遠いところをようこそいらっしゃいました。

浅野 : 初次见面, 我叫浅野。 感谢你们专程来接飞机。

はじめまして、浅野です。わざわざお出迎え恐れ入ります。

王 : 不客气。 我们 衷心欢迎 你们。好, 请到这边来。

どういたしまして。心からお待ちしておりました。さあ、どうぞこちらへ。

高 : 先生, 我帮您 提行李 吧。

お荷物お持ちしましょうか。

浅野 : 谢谢, 不必了。没什么东西。

いや、いいですよ。別にたいしたものもありませんから。

(苏琦 2008 : 255 『日語口訳教程』)

【2】の会話では、「您好」の「您」は第二人称として特に相手に敬意を示す時に用いられ、複数形はない。「您好」と「你好(こんにちは)」は、意味は同じで、初対面のあいさつには「您好」がよく用いられる。話者同士が親しい間柄であれば「您好」は使われない。

次に、中国語の「請+動詞(どうぞ…)」という表現形式は、上の例の「请到这边来」にあるように尊敬や丁寧な気持ちを表す時にしばしば使用される。例えば、「请喝茶」(どう

ぞ、お茶をお召しあがりください)、「请进」(どうぞ、お入りください)、「请坐」(どうぞ、お腰かけください)のような組み合わせの言い方が常に使われている。

定義から見れば、両者とも固定的な表現形式のある点が指摘される。例えば、動詞(いただく、请)や人称代名詞(わたくし、您)であり、さらに、「ご結婚なさる」、「お考えになる」、「見られる」、「お聞きする」などのような中国語にない敬語表現でもある。したがって、どちらにおいても普通より丁寧な言い方で、礼儀正しいイメージが持たれている。日本語の場合は話題にする人物を目上と待遇する時に異なる言語形式が用いられるのに対して、中国語の場合は相手の地位によって言葉遣いの変化はほとんど見出されない。

3 敬語の分類

敬語の分類について両言語では敬意を表す時の気持ちは同様であっても、表現形式や種類は必ずしも同様ではないものと定義から見出してきた。

3.1 日本語における敬語の分類

日本語の敬語は基本的に三種類に分けられる。すなわち、尊敬語、謙譲語、丁寧語である。河路(2006:165)の説によると、尊敬語は目上の人など、立場が上の人や他人に対して用いる言葉であり、謙譲語は自分の立場を低めることで相対的に相手を高める言葉、そして丁寧語は普通より多少丁寧な言葉遣いをすることで、意識しなくても自然に日常的、相手に敬意を払っている様子を表すための言葉であるとされている。

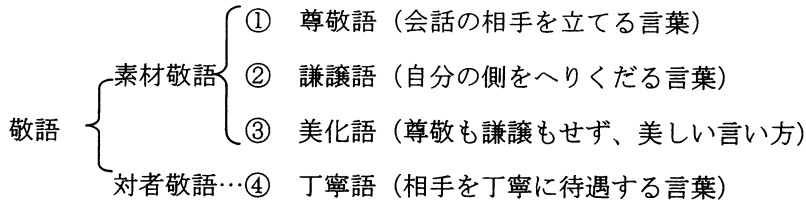
これに関連して邢(2008:15)は、敬語を従来の分類と新たな分類に分けたとされている。その説を参照しながら多少変更を加えて、表1にまとめてみた。

表1: 日本語における敬語の分類

従来の分類	新分類	使用例
①尊敬語	尊敬語(相手を立てて述べる)	いらっしゃる、なさる、読まれる
②謙譲語	謙譲語Ⅰ(自分側をへりくだる)	伺う、お届けする、ご説明する
	謙譲語Ⅱ(丁重語)	参る、申す、拙著
③丁寧語	丁寧語(相手に丁寧に述べる)	です、ます、ございます
	美化語(物事を美化して述べる)	お水、お仕事、ご返事

この分類については謙譲語を二つに分け、表現形式を細分化したことである。例えば、一つ目の「伺う」という言い方は自分から相手への行為について相手を立てて述べることで、二つ目の敬語動詞「参る」は自分の行為を相手に謙って述べる言い方である。さらに美化語(お水)は丁寧語(ます・です)のグループに入れられている。

さらに、辻村（1977）は別の分類方法を提案している。まとめてみた次の図によって示してみよう。



(佐伯等 1998 : 94『国語概説』から引用)

図中の「素材敬語」とは表現の素材となる人物や物事や事柄に関する敬語である。それは三つに分けられる。

① 尊敬語とは、発話者や書き手が目上の人として待遇する聞き手そのものや、その人物の事物、動作、状態などについて敬意を払っていることを表す言葉である。自分の側の行動や事柄については、尊敬語は用いない。以下はその具体例である。

人物そのもの…あなた、先生：例文、「お母様がご入院なされた」

人物の事物 …ご返事、お財布：例文、「ステキなお帽子ですね」

人物の動作 …お召し上がる、いらっしゃる、お話になる：例文、「お越しになります」

人物の状態 …お元気、お美しい、ご健康：例文、「ご婚約なされたのですね」

② 謙譲語とは発話者や書き手を相手よりも下においた表現のことであり、自分を低めた言い方をつかうことで、結果的に相手を高め、敬意を示す表現方法である。謙譲語も尊敬語と同じように、人物そのものや、その人物の事物・行動などについて言う敬語である。

人物そのもの…わたくし、せがれ

人物の事物 …愚見、小社

人物の動作 …お呼び出し申し上げる、お読みいただく

謙譲語はその言葉自体がへりくだりを表す場合があり、例としては「見る」→「拝見する」、「言う」→「申す」「申し上げる」、「もらう」→「いただく」「頂戴する」などが該当し、すべて異なる動詞が謙譲語として使われる。

③ 美化語とは話し手が聞き手に上品な印象を与えるために使う言葉である。文法的に見れば敬語とは言い難いが、聞き手に対する配慮を示しているということで敬語に準じるものとされることが多いようである。発話者が聞き手に対して品位を表すために、表現の素材となる事物や動作や状態などを美化して言う敬語である。また丁寧語を美化語に入れる

研究者もいる。

事物 …おなか (腹)、お茶 (茶)

動作 …やすむ (寝る)、食べる (食う)

状態 …おいしい (うまい)

このように、名詞に「お」² (お店、お食事) や「ご」 (ご返事、ご丁寧) を付けたり、語彙を変えたりすることで美化語は作られる。話し手が普通に使われ、しかし男女に使用の差があり、とくに女性は「お…」、「ご…」をよくつける傾向があると言われている (河路 : 85)。

④ 佐伯 (1998 : 96) によると、丁寧語は「発話者が聞き手に対してつつしみの気持ちを表す敬語」と述べられている。日本語では、普通の丁寧さを表す時には「です」「ます」よりも「であります」「でございます」のような丁寧語の表現形式がよく使われる。

このように、日本語の敬語の分類は研究者によってそれぞれ異なっている。本稿では、対照研究の観点で、河路 (2006 : 165) による敬語の尊敬語、謙譲語、丁寧語という基本三種類に焦点を絞り、中国語の敬語との対照比較を行ってみたい。

3.2 中国語における敬語の分類

中国語の敬語は日本のような複雑な敬語表現形式はあまり見出されない。日本語のような細かい分類もあまり存在せず、形成されていないと言ってもよいぐらいである。中国語の敬語の分類については周 (2008) の研究によると、次のように分けてみることができる。

表 2 : 中国語における敬語の分類

敬語の分類		使用例
① 尊敬語		您 (あなた様) 貴校 (貴校) 閣下 (閣下) 敬请 (どうぞ) 賜教 (ご指導くださる) など
② 謙譲語		鄙人 (小生、不肖) 不才 (不肖、私め) 岂敢岂敢 (どういたしまして、恐れ入ります)
③ 雅語	感謝の言葉	不甚感激 (心から感謝いたします) 多谢 (誠にありがとうございます)
	詫びの言葉	对不起 (すみません) 不好意思 (恐れ入ります) 请原谅 (お許してください)
	あいさつの言葉	您好 (こんにちは) 您早 (おはようございます) 再见 (さようなら) 回见 (またお目にかかります)

表 2 を総括すると、日本語の敬語と比べ、かなり異なると言ってもいいであろう。中国

語の敬語はその表現形式はほとんど語彙が中心になり、使いやすいと思われる。日本語の敬語のような文法的な複雑さは持っていないと言えるのであろう。

中国語の敬語の表現形式を見ると、特定の名詞「您」、「貴…」あるいは動詞「請…」などが用いられるのに加えて、尊敬の意を表すときには、日本の尊敬語と似ており、自分の立場で言う場合、否定の意を含む言語形式でわざわざ自分を低めることで相手を高め、敬意を表す言語表現は日本の謙讓語と似ていると考えられる。

最後に「感謝の言葉」、「詫びの言葉」、「あいさつの言葉」の雅語と呼ばれるほうはもっともきれいな言葉遣いや上品さを表すための言葉遣いである。しかしながら、これらの丁寧さと柔らかさを持つきれいな言い方は「雅語」¹と呼ばれることになった。たとえば「请慢用／ごゆっくり」、「请保重／お気をつけてください」、「请笑納／ご笑納ください」などがある。一方、雅語とも呼ばれる中国語の敬語の一つとして、日本語の敬語の尊敬語と謙讓語に入れても自然であろう。例えば、「非常谢谢／誠にありがとうございます」、「请喝茶／お茶をお飲みください」は日本の尊敬語に近く、「失礼／失礼いたします」、「回见／またお目にかかります」などは日本の謙讓語の表現形式に接近すると思われる。要するに、品位や上品さを表現できる言葉遣いは「雅語」とも呼ばれることが多くなり、中国全土に広がっている。

中国語は孤立語で日本語のような「です・ます・であります・でございます」の形は存在していない。その代わりとして名詞における敬語が存在しており、尊敬表現としての「貴・尊・令」と謙讓表現としての「敝・拙」などの接頭辞がある。例としてみると、尊敬語の場合は「貴姓（お名前）、貴體（お体）、貴府（お宅）、尊夫人（奥方）、令尊（お父様）、令堂（お母様）、令郎（お子さん）」などであり、謙讓語の場合は敝公司（弊社）、拙作（自分の作品の謙称）、拙見（自分の意見の謙称）、寒舍（自分の家の謙称）」などである（周筱娟 2008 : 43-63）。

また、年上の人姓に「老」をつけて「老曹」と呼んだりもする。一昔前は見知らぬ人や初対面の人に「同志」や「师傅」と呼びかけるのが丁寧な呼びかけ方であったが、時代が変わってきた現在ではこのような呼びかけをする人は少なくなっている。その代わりに、男性に対して「先生」、女性に対して「小姐」と呼びかけるようになってきた。特に近年、年齢問わず男性に「帅哥（かっこいいお兄さん）」、女性に「美女（美しい女）」と呼びかけをすることが多くなってきた。

動詞の場合は上でも触れた「请＋動詞」（どうぞ…）が一般的で、例としては「请便／ご自由に」などがある。また、フォーマルな場合に使われている敬語の表現形式は、例えば「何かを依頼する、働きかける」時に「…してください、…したい」よりも「…すること

ができますか、…してもいいですか」という丁寧なニュアンスをもたせるために、英語の“Could you, Can you” または “May I” に相当する「能不能」、「可不可以」、「好不好」などを使った疑問文を用いることが多くなっている。

4. 用例に見られる日中両言語の敬語の特徴

敬語の特徴を示す用例として、日中両言語ともに電話での会話を取り上げてみよう。まず、日本語の例を見ていく。

【3】ある会社の社員が中国人に電話する時

黄頤：こちらは東方会社の営業部でございます。

佐藤：日本朝日商社の佐藤でございますが、王静さんはいらっしゃいますか。

黄頤：王静ですね、少々お待ちください。

王静：もしもし、お待たせしました、王静です。

佐藤：佐藤です。(省略) いつお届けしたらよろしいでしょうか。

王静：明日の午前中に持ってきていただければありがたいのですが。

佐藤：はい、それでは、明日の午前中お届けします。

(曾宪凭 1998 : 127 『日語口訳基礎』)

【3】の会話の下線部のような敬語の表現形式はフォーマルな会話場面によく用いられる。特に仕事の成否に関わる電話の相談や交渉などでは、基本的なマナーとしてこのような敬語を使う心得は欠かせないであろう。例えば、王静は「いただければ」、佐藤は「お届けします」という謙譲表現を使っているが、いずれにおいても発話者は相手に敬意を表現するために自分側の物事を謙譲の口調でいう日本会社のマナーであり、特にビジネスの社会で、敬語を用いることは常識になる。

また「いらっしゃいます」と「お待ちください」は「居る」と「待つ」に対する敬語で、この表現形式について日本語の基本文法的なもので、日本語学習者としてこれらの基礎知識を身につけることは大切である。特にビジネスのようなフォーマルな場合には、丁寧な言い方や敬語を使うエチケットを心得ている人がよりよい評価をされるであろう。

次は中国語の例を通して敬語についてどのような表現形式があるのかを見ていく。

【4】電話を取るのが遅れた時

李：让您久等了。这里是东方公司。

お待たせいたしました。東方会社です。

取引先：百忙中打扰您，非常抱歉。我是日本朝日商社の上島。

请问营业部长佐藤先生在吗？

お忙しいところを申し訳ございませんが、私、日本朝日商社の上島と申します。営業部長の佐藤様をお願いしたいのですが。

李：对不起。佐藤先生正在通电话。您别挂电话，稍等一下，好吗？
申し訳ございません。佐藤はただいま電話中ですので、
このまましばらくお待ちいただけますか。

(目黒真実等 2007 : 116 『日語会話 商務篇』)

中国の職場では、一般的には代名詞である「这里・这儿／こちら」を用い、日本語のような「です、でございます」という丁寧語は使われない。【4】「非常抱歉／申し訳ございません」や「对不起／申し訳ありません」は文字通りで、お詫びをする時に用いられるあいさつ用語である。そのほか、お詫びの言葉として、「不好意思／恐れ入ります」のような言い方もある。

さらに、3.2 節で述べたように中国語における「您」(あなた様)と「你」(あなた)は第二人称代名詞であり、「您」は尊敬あるいは丁寧な意を表す呼称で、「你」は普通の呼び方である。「请…」は「どうぞ…してください」という意味であり、中国語には尊敬や丁寧な気持ちを表す重要な敬語表現形式の一つであり、日常的で、幅広く用いられている。

5 結果のまとめ

日中両者の用例を対照した結果から、会話の場面において敬語使用状況をまとめてみると、次の表3のようになる。

表3：日中両国語における敬語の使用状況³

言語表現の場面	尊敬語		謙讓語		丁寧語	雅語		
						感謝	詫び	あいさつ
	日	中	日	中	日	中	中	中
電話への対応の言葉遣い	○	○	○	×	○	○	○	○

表3を概観してみると、電話での応対場面では尊敬語が用いられるという点では両言語は共通しているであろう。他方、謙讓語の使用状況は両言語では完全に異なっている。日本の場合は謙讓語が尊敬語と同様に用いられるが、中国語では電話をする場合に謙讓語があまり使用されていないことがうかがえる。なお、丁寧語については上で述べたとおり、日本語の敬語に特有であり、中国語との対照比較は不可能である。

日本語の敬語の中で、例えば、尊敬語、謙讓語、丁寧語が中心であるのに対して、中国

語の敬語の中で、尊敬語や「感謝、お詫び、あいさつ」の雅語とされる言葉遣いが中心である。

6 おわりに

本稿では日中両国語の敬語における定義、分類、表現形式および会話の用例を用い、両言語の敬語の使われ方について比較を行った。そこで、両者の特徴について明らかになった点を以下に列挙する。

(1) 日本語の敬語は発話者が相手や話題の人物に対する敬意を表すために固有の言語表現形式があり、また文法の一部として欠かせない。中国語の敬語は尊敬や謙譲の意を表す具体的な語句を指すものであり、ほとんど語彙が中心で文法的なものは持っておらず、中国語の基本的な語順に応じて使われればよいであろう。

(2) 敬語の種類については、日本語の尊敬語や謙譲語は中国語の敬語と対応しているが、謙譲語は中国語の敬語において種類が多くはない。中国の場合では感謝の言葉、詫びの言葉、あいさつの言葉の三種類を「雅語」とも呼ばれる上品さのある表現形式は中国全土に広がっている。

(3) 両言語の対比した結果から見ると、日本において敬語の使用は、発話者が相手との上下関係によって言葉遣いを複雑に変化させる。敬語の使用範囲の幅が広く、種類が多く思われる。これらについて日本語学習者にとっては難点になると思う。学習者として日本語の敬語を上手に把握するために、やはりその言語文化をよりよく理解し、日本語の言語ルールや基礎知識を身に付けることである。どのような場合に、どのような種類の敬語を使えばよいかを理解できるようにする。

ところが、日中両国ともに情報化文明は発達してきても、両国の文化や言語の使用習慣には違いがあり、敬語の使い分けや言葉遣いは言うまでもなく異なっている。日本語は敬語の表現形式が豊かな言語であり、相手と自分の立場の違いによって、その表現形式が様々に変化する。一方、中国語は敬語体系が貧弱であり、日本語のように相手によって言葉遣いに変化するという事はあまり多くない。では、中国語の敬語の使用状況が日本と比べてみると、それほど多彩ではなく、文法的な細分化にもまとまりがないようである。

学習者は相手の国の言葉を使うときに、やはり自国の言葉と常に比較対照し、両者の共通点や相違点を探し、理解する上での確に言えば、上達するはずであると筆者は確信し、

そうなるように願っている。

注釈

- 1 本稿で「雅語」とされた表現と日本語の「雅語」とは性質的なものが異なる。日本の雅語は伝統的でみやびやかな言葉として、詩歌や古文の表現に用いられる。(梅沢忠夫等 (1995) 『日本語大辞典』講談社)。中国の「雅語」は比較的に上品な言葉やきれいな言い方を指す。フォーマルな場合や、目上の人と女性のいる場合に常に用いられる。これらの言葉を用いるとその人の文化的素養や他人を尊重する個人的資質も具現できる。現在は礼儀正しく上品さのある言葉であれば「雅語」と言うことが多い。例えば、食事をする時に「请慢用／ごゆっくりお召し上がりください」、また日本語に訳した場合なら、「失礼いたします、お伺いします、お邪魔いたします、お目にかかります、いらっしゃいます」など多くある。
- 2 日本語の語彙は和語、漢語、外来語に分けられる。美化語における名詞に「お」をつけるか「ご」をつけるかという時には、和語に「お」をつけ、例えば、「お静か」、漢語に「ご」をつけ、例えば、「ご健康」、外来語に「お」や「ご」はつけない。(河路 2006 : 175)
- 3 表 3 では「日」は日本語の敬語、「中」は中国語の敬語の略したもの。「○」はよく用い、「×」は用いないことを示す。

参考文献

- 梅沢忠夫等 (1995) 『日本語大辞典』講談社
河路勝 (2006) 『美しい敬語を身につける本』中経出版
久保田修 (1997) 『日本語の表現』双文社出版
邢文柱 (2008) 『日語知識』大連外国語学院出版社
佐伯哲夫、山内洋一郎 (1998) 『国語概説』和泉書院 PP. 92-97
周筱娟 (2008) 『現代漢語礼貌言語研究』中国社会科学出版社
苏琦 (2008) 『日語口訳教程』商务印书馆
辻村敏樹 (1977) 『岩波講座日本語 4 敬語』共文社
目黒真実等著、郭志紅訳 (2007) 『日語会話 商務篇』外語教学与研究出版社